

中学基礎がため100%

できた! 中3国語

読 解

別 冊
解答と解説

→ていねいに引っぱってください。別冊解答になります。

- 難しい問題には解説がついています。よく読みましょう。
- **例**は、自分で言葉を考えて書く問題の解答例です。
同じような意味であれば、解答と全く同じ答えでなくても正解です。
- 別解は、()の中に示してあります。()の中の答えでも正解です。

KUMON

一章 説明文 1 指示語 基本問題①

P.4 確認 (1) 卵 (2) セーター

1 ★ (1) メダカ (2) 洋服 (3) 大きな山 (4) 写真 (1) 小さな駅 (2) お店 (3) 様々な実験 (4) 池 (5) パン屋 (6) 小学校 (1) 北海道 (2) 草の上 (3) 鈴木さん (4) 遊歩道 (5) カリフォルニア

P.5 2 (1) 小さな駅 (2) お店 (3) 様々な実験 (4) 池 (5) パン屋 (6) 小学校 (1) 北海道 (2) 草の上 (3) 鈴木さん (4) 遊歩道 (5) カリフォルニア

P.6 1 (1) 近所 おじいさん (2) 人 高波 (3) プレゼント クリスマス (4) 情報がコンピューター回線を通じて世界中に伝わる

一章 説明文 1 指示語 基本問題②

一章 説明文 1 指示語 基本問題③

P.7 3 (1) 自分のできることから始めよう (2) 手当たりしだいに探す (3) 自分の意見ばかり主張している (4) 必要以上のエネルギーを消費しない努力 (1) ピアノの練習を続け (2) すばらしい野球選手 (3) 目に見えないもののけが引き起こす (4) 水星・金星・火星・木星・土星 (1) 祖父母、父、母、姉、そしてぼく (2) 兄 (3) 弟

4 (1) 水星・金星・火星・木星・土星 (2) 祖父母、父、母、姉、そしてぼく (3) 兄 (4) 弟

一章 説明文 1 指示語 基本問題③

P.8 1 (1) 事件（「狙撃」でも正解。） (2) 単なる情報 (3) 試験観測の初画像 (4) 鮮やかな天体像 (1) 腕によりをかけて豪華な弁当を作ろうとする (2) 報道されなかった 報道された 重要な (3) 自分の存在 視覚的に認められない (4) コーンちゃんが手ですくったおかゆを、ひよいと男の子の口もとに近づけ、食べさせてやった

P.9 2 (1) 腕によりをかけて豪華な弁当を作ろうとする (2) 報道されなかった 報道された 重要な (3) 自分の存在 視覚的に認められない (4) コーンちゃんが手ですくったおかゆを、ひよいと男の子の口もとに近づけ、食べさせてやった

4 コーンちゃんが手ですくったおかゆを、ひよいと男の子の口もとに近づけ、食べさせてやった

P.10

1

(1) 自分の抱えているイメージ

(2) 例 砂漠といえは、「果てしない銀色の砂の海」を思い描く

(3) ③ イ ④ ウ ⑤ ア

解説

③は筆者が思い描いていた砂漠の「果てしない銀色の砂の海」のイメージ、④は、筆者のイメージとはちがうが、「砂の海」の部分、ということ。⑤は「石ころだらけ…」だった実際のサハラのこと、ということ。

(4) 新しいイメージ 誕生

解説

前の段落に体験した具体的内容が書かれている。それは抱えていたイメージが裏切られた体験である。

(1) 室根山 大漁旗

解説

「それ」は「意外な光景」であり、山に海の大漁旗がひるがえったことを指す。

P.11

2

(2) 室根山

(3) ブナ、ミズキなどの落葉広葉樹

(4) 漁民 植林

(5) イ

解説

「そのため」に「うれしいことが起こり始めた」とあることに注目しよう。「室根村の人たち」が、植林をきっかけに注意してきたのはどういうことかを読み取ろう。イは、今までは放置していたが、「今年か

らは片づけるようにしました。」とあるので、誤りである。

P.12

1 確認

★ A ア B ウ

P.13

2

① イ ② ア ③ ウ ④ イ ⑤ ウ

P.14

1

① 運動会 ② 連合運動会

P.15

2

① 貧弱 ② 貧弱 ③ 明確 ④ 貧弱 ⑤ 貧弱 ⑥ 弱点 ⑦ 弱点

P.16

1

ウ

【解説】「食い違っている」から、「落胆と失意の旅」になるので、順接の接続語である。

2 イ

【解説】「樹木があるかもしれない」し、「菌が見つかるかもしれない」とあるので、対比・選択の接続語が入る文脈である。

3 イ

【解説】前後で別の話題になっていることに注目しよう。

4 イ

【解説】のあとで、「命の綱」とはどういうことを説明していることに注目しよう。

5 イ

【解説】の前では、情報が知識と誤解されやすいという考えが述べられ、あとで、コンピュータとネットワークの存在を、その例として挙げている。

6 ア

【解説】の前で、「どんな天体であったのか」という疑問を提示し、あとでは、「どのようにして形成され進化してきたのであろうか」という疑問を加えていることに注目しよう。

2

A I B I C A D U

P.17

P.18

1

(1) つまり

(2) B E D I

【解説】Aの前後は逆の内容になっている。Bは、「調整・消灯」または「撤去」という関係である。Cのあとでは、前に述べた事柄に別の条件が加わるなら、というただし書きを付け加えている。Dのあとの文の「くからである」に注目しよう。理由を述べている。

【解説】Bの前では、「胸に描いていたイメージ」と「実際の遺跡」とが食い違っていると述べ、あとでは、「落胆と失意の旅」と述べている。前に述べたことに対する当然の結果があとに続くので、Eが入る。Dは写真を友人に見せたら、一見して「言った」と続くので、Iが入る。

(3) ① 実際の遺跡 ② I

【解説】Cの前は、「やるせない」、あとでは「思い直していいきかせる」ので、「けれども」などの逆接の接続語になる。

(1) A E B I

【解説】Aの前では、マスメディアが出来事を「選択」して伝えていると述べ、Aのあとでは、それだけでなく、「加工」もしていると付け加えている。

また、Bのあとでは、「報道のしかた」の例が挙げ

P.19

2

られている。

(2) 加工 報道のしかた

【解説】「問題はくことにあります。」という文の構造に注目する。「そして」の前後に問題が二点述べられている。

(3) い

【解説】入れる文の「もう一つの典型は」に注目する。「一つの典型を、わたしは『鳥瞰情報型』とよびます。」として、その内容が「く鳥瞰図のように報道するものです。」までに述べられている。このことをとらえると、(い)に入ることがわかる。

(4) イ

【解説】「あるいは」は、いくつかの事柄を列挙したり、どれかを選択したりする場合に使われる。アは、説明を補足し、ウは、前の結果が述べられている。

一章 説明文

3 内容の理解

基本問題①

P.20

確認

- ★ ① 他と区別できる違いがはっきりしていないもの
- ② すがたかたちが定まらないもの

(順不同)

1 判断 根拠

2 明るい不思議な大宴会

3 (1) 心理的な間

【解説】

日本人特有の空白地帯(間)という文脈から、

P.21

五字の言葉を探す。

(2) B I C A

【解説】「深謀」の意味は「深い考えをもったばかりこと」である。

一章 説明文

3 内容の理解

基本問題②

P.22

1

初め 自然 終わり 思想

2

(1) 共有性の保証人 地球村を支える屋台骨(順不同)

(2) 共有

【解説】マスメディアが出来事を共有できる形で伝えるからこそ、わたしたちもそれらの出来事を共有することが可能という文脈をおさえる。

3

(1) 知識と経験

【解説】筆者は、問題に直面したとき、「自分一人」と「全員」の何を用いて解決すると述べているのかを読み取る。

(2) 協力 解決

【解説】社会に出たときの問題解決の仕方を述べている部分に注目する。

4

実験 専門分化 文科系 分断

【解説】筆者は、科学の専門分化と並行して、理科系と文科系の分野がばらばらになってしまっている文化の現状について言及している。

P.23

P.24

1

(1) 日本古来の音曲

解説

2段落目の「それにひきかえ」のあとに注目する。

(2) A イ B ア

解説

Aは「息を継ぐ暇もなく」でどうなのか、Bは「音の絶え間というものがいたるところにあつて」
どうなのか、ということを考える。

(3) 音の絶え間

(4) 沈黙 日本の音曲

解説

(2)でおさえたように、モーツァルトは「沈黙を恐れ」たかのように思える一方、日本の音曲には音の絶え間があるということ。

P.25

2

(1) 知識
(2) 「観る」という行為

解説

線②を含む文の初めの「いわば」に注目する。「眼の記憶」とはどういう記憶なのかを、前の文で具体的に述べている。

(3) 眼の記憶・手の記憶・身体の記憶(順不同)

解説

筆者は、過去の記憶は知識だけではなく、「」を付けた三つの記憶などの総合として残されると考えている。

P.26

1

1 情報

1 リスク

2 製造会社

消費者

2 うれしくなる 遊び

P.27

2

1 ウ 2 ア
2 ウ 2 イ

解説

1段落には「感受性」を高めるためにどうするか、
2段落には「批評する言葉」をためて、言葉の力を
育てていくために必要な二つのことが述べられている。

P.28

1

1 特異な天体

2 質量比

P.29

2

1 供給

2 森 腐葉土 海

P.29

3

1 生態系

2 絶滅 影響

2 1 動揺する だじなもの
2 ものを考えさせる

解説

暗い夜の意義について、1で述べた意見を、2でさらに補強している。

P.30

1

(1) コーンちゃん 食べさせてやった
(2) 他人への思いやり

P.31

2

(3) イ

解説 4段落では、3段落で述べた驚きがさらに分析して述べられていることを読み取ろう。

(1) ウ

文字 臨場感

(2) ア

解説

1・2段落を受けて3段落があるが、テレビと新聞のどちらが優れているかは書かれていないので、イは誤り。また、テレビと新聞の得意とする表現法を述べているだけではないので、ウも誤りである。

一章 説明文

4 段落の要点と文章構成

標準問題

P.32

1

(1) イ

最良の場所 マウナケア山

(2) ア

解説

3段落の初めの「また」に注目しよう。2段落に加えて述べられた段落であることから、2・3段落を一つにしたアが答えとなる。

P.33

2

(1) 特異 衝突

地球を知る 月探査

(2) ア

解説

筆者は1段落で述べた仮説について、2段落で「〜楽しみだ。」、3段落で「〜思い出してみよう。〜見えるかもしれない。」と、自身が考えたこ

と・読者への提言を述べている。

P.34

1

★考える能力

シリラスウナギ 川

P.35

2

ウ

解説

アは第二段落の初めの部分、イはそれに続く部分の内容である。筆者の意見としては最後の二文が重要なので、ウが正しい。

3

イ

解説

筆者は、文章の最初にあるように「人との語り合いの重要性」について述べていて、自分と違う立場の人との語り合いを重視している。アは、「同じ立場の他者」が誤り。ウは、「多くの人々の意見に従う」が誤り。

一章 説明文

5 筆者の意見と要旨

基本問題②

P.36

1

ア

2

イ

解説

筆者は、私たちが情報社会を生きていて、メディアの発する情報が「世の中を理解するうえで中心的な役割を果たし、私たちの考え方や価値観の形成、物事を選択において」影響を与えていると述べてい

P.37

3

イ
る。

解説

筆者は、ソーシャルメディアの登場によって、「半径五メートルのニュース」、つまり、身近な出来事が発信可能になったと述べている。

4

ウ

解説

情報と意味の関係を正確にとらえたものはウ。アは、「言葉の情報」を「固定したもの」としているのが誤り。イは、「だれもが同じ情報の意味を得る」が誤り。

(2) A イ B ア

解説 Bは、あとに「メッセージを送り出すための」とあるので、「送り手」とわかる。

(3) メディア・リテラシー

解説 筆者は、情報社会に生きる私たちにとって、何に身をつける必要があるかを第二段落で述べている。

(4) イ

一章 説明文

たしかめよう

完成問題①

P.40

▼

(1) イ

解説

テレビを見て現地のことかわかったと言っているので、テレビが最も現場の様子を伝えていると考えられていることから、イが正解とわかる。

(2) わけもなく涙が出てくる

解説 “目頭が熱くなる”は、感動して涙ぐんでくる、という意味の慣用句。

(3) a ア b イ c イ

解説

冒頭の会話から「百聞は一見にしかず」というのがテレビ派、「涙が出てくる」というのが体験派の言葉とわかる。Cには、胸を打つ話をした体験派が入る。

(4) 決定的瞬間を見逃したくないという未練

解説 もしテレビを消して、大事なシーンが見られないと残念だ、という「未練」の気持ちである。

P.38

1

(1) ア

(2) イメージ 非現実的(「のよう」を入れても正解。)

解説

直後の文に「それは彼にとっては、くのように思われたのだ。」とあることに注目しよう。

(3) 自分の抱えているイメージ

解説

人は自分のイメージで対象を見ていて、現実に見たものが自分のイメージどおりだったらそれが現実だと思おうのである。このことが、6行目の「つまりく」という一文に説明されている。

P.39

2

(1) 情報源 主体的

解説

設問の文は、——線に続く部分をまとめたものである。

一章 説明文 たしかめよう 完成問題②

P.42

(1) 近代の人間

解説

線部の直前に「活字文化によって」とあるので、活字（文化）について述べているところを探す。「近代の人間は、……活字の方が……高級であるという考え方にとらわれている。」とある。

(2) エ

解説

□の前後に「めいめいそういう点のような思考をふりまく」、「いろいろな種類のアイデンティエイの星のかがやく夜空のようだ」とあるので、**エ**がふさわしい。

(3) ウ

解説

筆者は本を読むこと、ひとりごと、おしゃべりなどの「具体例」や「星のかがやく夜空のようだ」などの「比喻表現」を用いて論を展開している。**ア**の「倒置」、**イ**の「一貫して敬体」、**エ**の「五音や七音」は用いられていない。

(4) 例

乱読の内容が、意識下にある関心と偶然に結びつく

(6) 例

解説

ジャン・ボードリヤール氏の言葉に注目しよう。テレビの画面が隠す現実を見透かす鋭い眼を持っていなければならないということ。
指示語の内容は前の部分にあることが多い。

(5) ウ

解説

ジャン・ボードリヤール氏の言葉に注目しよう。

P.44

一章 小説

1 場面をとらえる

基本問題①

確認

★

時 十一月 場所 丘

登場人物 祐太

できごと 祐太 絵

1

(1) どこ…上野公園に古くからある西洋料理店

誰…ルロイ修道士

(2) 春

解説

「桜の花はもうとうに散って、葉桜にはまだ間がある」とあることに注目しよう。

2

(1) 寛政

(2) ① 喜助 ② 弟殺し

(3) ① 羽田庄兵衛

② 神妙 逆らわぬ こびる

解説

「喜助の様子を見るに、……態度ではない。」の部分に書かれている。

P.43

P.46

1 担架 韋駄天走り 息せききって

2 デッキ

(1) そっと手で

(2) かついでいる

P.47

3

(1) ア 第二段落の「憲兵」という言葉などから捉える。

(2) 大きな声 静かに

(3) イ 母は、まず、静かにするように——線①の動作で示し、そのあとで、言葉で伝えている。

(4) イ

解説 「目の保養」「耳の保養」などと使われるときの「保養」は、楽しみや安らぎのこと。

解説 母は、「若い人の笑い声は、聞いてて気持ちええわ」と言っている。大きな声を出せない世の中だけ

れど、若い人の未来は、明るいものであってほしい、と思っている。

P.48

1 文四郎 ふく(順不同)

(2) その声で、くまった。

解説 「見ればあいさつをする」という態度が変わって、

よそよそしくなった様子が書かれている部分を探そう。

2 ルントウ 子供の頃の思い出

3

(1) そっけない態度 心当たり

(2) 「そんな」

解説 「その話」をしたときの小和田逸平の言葉が先に書かれている。その言葉からが回想である。

4 私…ア ルントウ…イ

解説 「私は口がきけなかった」とあるので、ウの「話が尽きないでいる」という様子ではない。

P.50

1 例 模擬テストの結果が出た

(1) 東山だけは

(2) 顔色が変わった

(3) ウ

(4) 例 戦死の公報が来て、遺品が墓に葬られていた長兄が現れたから。(二十九字)

解説 「戦死したはずの長兄が現れたから」という内容が書かれていれば正解。

(2) 土蔵の二階の明かり窓の下で芥川龍之介を読んでいた

(2) 一範兄さん

P.49

P.51

解説

「入り口に立ちはだかっていた」とあるので、死んだはずの長兄のことだとわかる。字数の指定があることに注意しよう。

(3) まぶたを細くすばめていた

解説

線③は、おどろきで目を見開いていた様子である。これと対照的な目の表情について描写されているところを探そう。

(4) おどろき

解説

兄が生きて戻ったことの「喜び」よりも「おどろき」が勝っていたのである。

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題①

確認

★

心情が直接表される

寂しさ（「寂しい」も正解。）

心情が間接的に表される

孤独

1

名残惜しい気はしない

イ

たまらなく悲しい

痛さ 重さ

それがど

解説

「思い」とあるので、由美が茂に対して、どんな感情でいるかがわかる部分を探そう。直接的な言葉で表現されている。

3

(2) (1) 甘い匂う
イ

P.53

2

(2) (1) (3) (2) (1)

P.52

確認

★

心情が直接表される

寂しさ（「寂しい」も正解。）

心情が間接的に表される

孤独

1

名残惜しい気はしない

イ

たまらなく悲しい

痛さ 重さ

それがど

解説

「思い」とあるので、由美が茂に対して、どんな感情でいるかがわかる部分を探そう。直接的な言葉で表現されている。

3

(2) (1) 甘い匂う
イ

解説

「甘い匂うようなささやき」が聞こえてきたあとの気持ちであることに注意しよう。「空が膨らんでいるように思えた」のは、由美の心も膨らむような気持ちだったからだと考えられる。

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題②

P.54

1

(1) 人工的（「無個性」でも正解。） 無表情 偽物

(2) 怒り 僕は僕でありたい

(3) ウ

解説

「僕」は仮面に疑問を感じているので、ウはあてはまらない。

P.55

2

(1) 寒さ 空模様 冷たい風 鉛色 活気 わびしい

(2) ウ

解説

わびしい村々の様子に寂寥を覚えているのだから、アやイのような前向きな感情ではない。

(3) 故郷 寂寥 別れ 楽しい

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題③

P.56

1

(1) イ

解説

直後に「事の重大さに胸をどきどきさせながら」とあるので注目しよう。「息を止める」という慣用表現の意味（驚きのあまり、息を止めること。）がわかってなくても、前後の文脈から「僕」の心情が推測で

P.58

1

二章小説

2 心情を読み取る

標準問題

(1) いちばん臆

解説

同じことを心の中で言っている部分『何かを始める時の自分が、いちばん臆病で、そしていちばん勇

P.57

2

(1) ア

解説

「僕はグラウンドに背を向け……」や、「僕はかまわず歩き続けた」などに、「僕」が徹也に腹を立てている気持ちが表れている。

(2) 別人 かけ声 重苦しい

(3) イ

解説

徹也が、「話がある」と言って「僕」の前に回り込んで、見つめた様子から考えよう。

(2) 例

美しい。

寂しそうで、悲しみさえたたえているが、とても

解説

彼女の素顔については、——線②の直後の二文に書かれている。

(3) ①

② イ

解説

「僕」は仮面を外す彼女のことをとがめる気にもならず、自分と同じ考えだと思いい、「初めて同類に会えたのだ。」というのだから、この出会いに感動を覚えているのである。

P.60

確認

★

二章小説

3 人物像をつかむ

基本問題①

人物の置かれた状況

女手一つ

P.59

2

(1) ①

② イ

解説

父親は辺りを見回して「わしは逃げる。」と言っている。このままここにいたら、二人とも命を落とすと考えたのである。

(2) 逃げ出した 間の悪い

(3) ア

解説

「こんな対面」の父親と少年の二人それぞれが複雑な思いでいることを読み取ろう。ほかに方法がなかったとはいえ、自分を捨てて逃げた父親の行動は、少年を傷つけたであろう。

(2) イ

直後の「手応え」「感触」に合う言葉を選ぶ。

(3) ア

解説

先頭を泳いでいることが分かり、勢い余っていることから喜びが感じられる。時間の流れを考えると、イ・ウは誤り。

(4) ウ

解説

「とうとう」からは、「やりとげた」という感じが伝わってくる。

敢だ。』に注目する。

登場人物の言動・関係 再婚

- 1 濱松 横浜 武蔵野 教師（「教員」でも正解。）
・悟

P.61

- 2 のんびり屋
堅苦しい
- 3 叔母
寡黙 敬愛
肝臓の具合
茂 浜松の実家

二章小説

3 人物像をつかむ

基本問題②

P.62

- 1 F 中野球部
もの心ついた キャッチボール
- 2 イ
- 3

解説

線②より前の部分にも、「ぼく」が一範兄の野球についてきたとき、「一蹴された」とある。何かわけがあって、兄たちは一範兄の野球の話題をさけたのである。

P.63

- 2
- 1 監督官 木づち たたき潰した
- 2 日曜日は休ませてほしい

解説

「カトリック者は日曜日の労働を戒律で禁じられている」ので、ルロイ修道士はこのように申し入れたのである。

例 心の底では日本人を憎んでいるので、気をつ

けるべき人物だ。

- 2 優しくった 泥だらけ

二章小説

3 人物像をつかむ

基本問題③

P.64

- 1 石像
- 2 ア

解説

「まるで石像のように」という比喻表現に注目しよう。レントウは、首を左右に振って、現在の境遇が厳しいものであることを説明している。

- 2 昼飯 品物 くれてやろう
てくのぼう
- 3

解説

「てくのぼう」とは、役に立たない人間のこと。

P.65

- 2
- 1 高瀬舟の宰領
- 2 遊山船にでも乗ったような顔
- 3 喜助
- 4 高瀬舟 弟 楽しそう 悪人

解説

庄兵衛は、喜助の顔を見て不思議な思っている。それは、喜助が罪人でありながら、楽しそうな様子であることに納得がゆかないからである。

二章小説

3 人物像をつかむ

標準問題

P.66

- 1
- 1 例 やまかがしに指をかまれたから。
（「やまかがし」は「蛇」でも正解。）

(3) (2)
イ ア

【解説】「手を文四郎にゆだねて」などから、ふくは文四郎に素直に従っていることを読み取る。

(4) ア・ウ (順不同)

【解説】蛇の毒から、ふくを守ろうとする様子や、「心配するな。それに武家の子は…」という言葉などから、文四郎の人物像を読み取る。

P.67
2

(1) 祐太

【例】眼つきが鋭く鼻の頭がぶつぶつになっているから。

(2) ア・ウ (順不同)

【解説】「ゴジラ爺」は祐太にとって「あまり好きな感じはなかった」存在である。

(4) ・不思議な老人 ・威張った老人 (順不同)

二章小説

4 表現に注意する

基本問題①

P.68
確認

★

擬音語

ハハハツ

笑い飛ばす

直喩法 (明喩法)

背負ったみたい

擬態語

しゃんと

伸びて

P.69

▼

(1) イ

(2) どんどん

(3) イ

(4) ウ

二章小説

4 表現に注意する

基本問題②

P.70
1

(1) イ

(2) 海辺で耕作

(3) ウ

(4) 松の幹のような手

【解説】直喩は「くような」などの言葉で表現されることを覚えておこう。

P.71
2

(1) A イ B ア C ウ

【解説】前後の文脈からとらえる。

(2) ウ

【解説】「病人の手でも握るように」とある。

(3) お別れの儀式

【解説】「いとまごい」の意味は、「別れを告げること」。

(4) ア

【解説】擬態語や直喩の多用があるのではなく、語り手が自問自答している様子が描かれている。

二章小説

4 表現に注意する

標準問題

P.72
1

(1) 半ば消え入

(2) ウ

【解説】直美のことを思うと鼓動が「切なげ」に聞こえ、生きてほしいと強く思うのである。

(3) 聞こえないはずの音

P.73

2

- (4) ア
- (1) ア
- (2) ア
- (3) イ

解説

「会話をしているような気分」とあるので、「ぼく」は実際に会話をしているわけではない。

- (4) まるで何か

P.74

確認

二章小説

5 主題をとらえる

基本問題①

★イ

解説

繰り返されている「どれほどく分からなかった」という言葉に注目して、「信頼」「脅威」という言葉を引き出す。

P.75

3 2

- (1) イ
- (2) ア
- 3 十五 徹也 百 直美 約束

P.76

1

二章小説

5 主題をとらえる

基本問題②

- (1) 警察 仮面 素顔
- (2) 彼女 仮面
- (3) 素顔同盟

解説

川の上流には、素顔で暮らしている集団があると、

P.77

2

- (1) 死ぬ 天国
- (2) イ

解説

前後の文脈に注目しよう。「わたし」に「本当に天国がありますか。」と問われて答えたのである。ルロイ修道士は「そのために、……神様を信じてきたのです。」と言っていることにも注目しよう。

- (3) にぎやかな天国
- (4) イ

解説

「わたし」は自分で自分をしかっているのである。イの「ルロイ修道士へのうらみ」はあてはまらない。

P.78

1

二章小説

5 主題をとらえる

標準問題

- (1) 若さ 死んだ
- (2) ① 友人たち一人一人
- ② 戦争には勝

解説

「それだった」の「それ」の内容は、同じ段落に書かれている。直後の部分に、「じいちゃんと「同じことを考えたと思う」とある。

P.79

2

(3) イ

最後の段落に「平和の申し子、和男。」とあるのに

注目する。

(1) ① 心 隔絶 ② 一つ心

(2) ② 香炉と燭台

③ 新しい生活

(3) ア

解説

地上には、もともと道があったわけではなく、歩く人がいて道ができたのである。それと同じで、希望も、希望をもつ人が多くなれば、実現に向かうのだということ。

二章小説

たしかめよう

完成問題①

P.80

▼

(1)

神様がこしらえた野球

解説

「先輩」が「つままない野球」をやめて、どんな野球をやろうと言ったのかに注目しよう。

(2)

① ウ

② 自分のためだけに野球をしない

解説

文章の最後の方の冷泉の言葉に注目しよう。「自分のためだけに野球をしない人間になればいい……」と言っている。

(3) ア

解説

直後の「いつも後になって、分かる……」に注目しよう。野球のすばらしさも「先輩」の病状も、後

P.82

▼

(5) イ

で分かったのだ。アの内容は書かれていない。

文末の句点を忘れないように注意する。

(4) 例

解説

由美が、「すみませんでした。何も知らないで。」と言っていることに注目しよう。試合に出られない茂をふびんに思って冷泉を訪ねたのだったが、冷泉の話聞いて、夫の悟の思いや冷泉の気持ちを知らず、いたたまれなくなったのである。

二章小説

たしかめよう

完成問題②

P.83

▼

(1) ア

例

皆が自分たちを大事に思って待っていてくれたので、感動した(二十八字)

解説

線③の前後に注目する。「クラスの連中は、ハアちゃんたちが怒られるのを『いい気味だ』くらいに思っているだろうと想像していた」のに、「クラスの全員が待っていてくれて、……皆がバンザイをしてくれた」ことに、ハアちゃんは感動している。

(3) エ

解説

先生が「子どもたちと厚い信頼関係を築こうとして色々と働きかけ」ているわけではないので、アは誤り。イの「優しく受け入れようとする先生の姿」、ウの「大人に頼らずに問題を解決しながら互いの信

頼関係を築いていく子どもたちの力強さ」も誤り。
 工の「好奇心こうきしんをくすぐられるような遊び（Ⅱ秘密基地）」、「大人（Ⅱ高先生と校長先生）に見まもられながら」、「きずなを育んでいく子どもたちの姿（Ⅱクラスの皆の反応）」があてはまる。

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る 基本問題①

P.84 確認

★ 筆者の置かれた状況の把握 戦争 負けた

筆者の思いの把握 びっくり

1

使った。

2

すごさ すばらしさ

3

しかたがない

1

(ご)く あたりまえ

2

さまざま

3

・よしよし ・うんうん（順不同）

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る 基本問題②

P.86

1

もともと

2

心のこめ方

3

サラダ 記念日（順不同）

1

恋の気持ち 輝き

2

① ことはを使う

3

② 心の筋肉

P.87

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る 標準問題

P.88

1

インタビュー

(1) インタビュー

(2) 話を続けた

(3) イ

解説 二人は納得なっとくいくまで話し続け、インタビューが終わってからも、「まだ」話し続けた、という文脈である。

P.89

2

寒くてひもじかった

(1) ウ

(2) ウ

(3) ウ

・小声 ・優しい瞳

解説 線③の前後をよく読もう。「ありがたかった」、「涙なみだがスーアの…」「さりげない親切」などから、ウの「みじめさ」はあてはまらない。

- (4) **例** ・フランスを嫌いになることはないという思い。
例 ・人類に絶望することはないという思い。

三章 随筆

たしかめよう

完成問題①

P.90

- (1) まるで石のように微動だにせず
 (2) 先生の声が
 (3) ・私 ・クニコ
 (4) **ウ**
 (5) **ウ**

解説 「日本非難の矢面」に立たなかったことで「子供の部分」が救われたのである。子供としては、非難されたり、除外されたりするようになつたことは避けたいのである。

- (6) **例** ・国際関係の複雑な絡み合いを説明していく仕事につきたいということ。
例 ・平和の追求に関わる仕事につきたいということ。

P.91

三章 随筆

たしかめよう

完成問題②

P.92

- (1) **ア**
 (2) **エ**
 (3) と同時に

解説 「たとえを用いて表した一文」とあるので、第一段落の「と同時に」、まるで自分の血のように身体の

中に脈打っているのを感じてみた。」という直喩を用いた一文に注目する。

P.93

- (4) **イ**

解説 ④段落の最後で、「人々の示したのは一種寡黙な感

動……暗黙の了解がお互いの間を満たしているかのようだった。」と述べているのに注目する。アの「単調な日常作業から解放」、ウの「労働のつらさに耐えながら」、エの「口に出したり身体に現したりしてはいけない」とは述べていない。

- (5) 自分の作品

解説 ②段落に、「試作に携わったすべての人々にとって自分の作品であったのかもしれない。」とあるところから引き出す。

四章

詩

1 詩の種類・表現技法

基本問題①

P.94

- 確認
 ★ 詩の種類 口語自由詩

この詩に用いられている表現技法 体言止め

P.95

- 1 文語詩
 2 定型詩 文語定型詩
 (1) 口語自由詩

解説 文語自由詩であれば、例えば「待つてゐた」は「待ちゐたり」などの文語で表されている。

- (2) 倒置法
 (3) 擬音語

(4) 嵐 比喩表現

第四章 詩 1 詩の種類・表現技法 基本問題②

P.96 1 みどり 青葉（順不同）

死と焰

① 反復法 ② 対句法

こもれ したたれ（順不同）

口語自由詩

P.97 2

解説 現代の話し言葉で書かれ、各行の音数に決まりが
ないので口語自由詩である。

(1) (4) (3) (2) (1)
エ ① 直喩 ② イ

第四章 詩 2 詩の鑑賞 基本問題①

P.98 確認 ★ 様子をとらえる 僕 鉄棒 一回転

心情をとらえる おお ああ ア

主題にせまる アイ

P.99 ▼ (1) 君

(2) われ 君

(3) ア

(4) イ ↓ エ ↓ ア ↓ ウ

第四章 詩 2 詩の鑑賞 基本問題②

P.100 1 蜂 水 出てくる
雲 花 衣装

P.101 2 言葉 天であるか 表現技法 反復法

(1) (3) (2) (1) (3) (2) (1) (3) (2) (1)

物理的 抽象的 神々 人間の知恵 高み

ア

解説 詩の中の言葉と鑑賞文を対応させて考えよう。「そ
の果実」は「秋になって熟れていく果実」であり、
「天」とは「人の知恵のとどかない神秘」と対応し
ているので、アが答えとわかる。

第四章 詩 3 俳句 基本問題①

P.102 確認 ★ (1) 初句切れ
(2) 天の川

(1) 切れ字 初句切れ

(2) 季語 秋

(3) 木々 体言止め

(1) 六五七五

(2) 椿 春

(3) けり 句切れなし

(1) 万緑 夏

(2) や 中間切れ

(3) (2) (1) (3) (2) (1) (3) (2) (1)

や 中間切れ

P.106

1

四章 詩

たしかめよう

完成問題①

- (2) (1) 初
- 花火

P.105

2

- (5) (4) (3) (2) (1) (5) (4)
 - イ ① すずき ② はらりと (「はらり」でも正解)
 - 自由律俳句
 - かな
 - 夏
 - どの子にも
 - 季語
- 解説** 季語が入ること、五・七・五の定型であることを「有季定型」という。

P.104

1

四章 詩

3 俳句

基本問題②

- (3) 咳 自由律俳句

- (1) A (季語) 雪 (季節) 冬
- B (季語) すずき (季節) 秋

- (3) (2) けり
- いくたびも

解説 作者は、病床びょうしょうにあつて雪の様子を見られないもどかしさから、何度も家族に雪の深さを尋ねているのである。

P.107

2

- (3) (2) (1) (5) (4)
- ウ ① 口語自由詩
- ② イ
- ③ 食わずには
- 解説** の直後の「生きてこれなかった」は一行目の「生きてゆけない」と同じような意味であることから「食わずには」が入るとわかる。
- ④ 私の目にはじめてあふれる涙の涙。
- 解説** 直接心情を表す言葉はなく、最後の行に気持ちがこめられていることを読み取ろう。
- (5) イ
- 解説** 「メシを……金もこころも」までに注目。これらをもみな犠牲ぎせいにして「食わずには生きてこれなかった。」のである。

P.108

▼ (2) (1)

エ 口語自由詩

【解説】

アの「言いきりの表現」、イの「文語的な表現」、ウの「定型の力強いリズム」がこの詩の表現にあてはまらない。

(3)

仲立ち

【解説】

「虻」は第一連では「虫や風」にあたることに注目する。「虫や風」の働きを考えよう。

P.109

(5) (4)

ウ ウ

【解説】

生命はお互いに支えあいながらこの世に存在していることと作者は考えていることをとらえよう。

書いてみよう

【例】

「生命は自分自身だけでは完結できない」という言葉はつととした。だれかに支えられていることを意識せずにいたことに気づかされた思いだった。(六十七字)

P.110

確認

★

① あわれ

② におい

③ えほん

④ おかし

1

① かわら

② つかい

P.111

2

① いじ

② いずみ

3

① かいせき

② がいぶん

4

いつとき

5

① こうべ

② しゅうか

6

① 散るらん

② 参りなん

③ ようがい

④ ぞうり

1

① ようよう

② やまぎわ

② かく

② ゆきこう (※「ゆきかう」も可。)

③ えよう

② いっすい

③ まず

④ きたかみがわ

④ いう

② とつてかえし

③ いわお

④ とじて

⑤ はいて

⑥ じゃくまく

① なお

② おもいやれば

③ わびあえる

④ わたらん

⑤ さるおりしも

⑥ いお

P.113

P.112

五章古典 2 古文の読解 基本問題①

確認 ★ 古語の意味 永遠 旅人

古文特有の表現 舟の上 馬のくつわ 馬子

表現技法 年 舟の上に生涯を浮かべ

P.115 (1) わたし 旅

(2) 春 霞 白河の関

(3) 「春」と「霞」は、順不同

(4) アイエ (順不同)

(5) 春 わびしい 華やかな

五章古典 2 古文の読解 基本問題②

P.116 1 経堂 光堂 (順不同)

(2) 金の柱霜雪に朽ちて

(3) とつくにくるはずが

(4) 五月雨 夏 光堂

(5) イ・エ (順不同)

(6) イ

(7) (4) (3) ウ

尼そぎ 目 髪物

問われるので、覚えておこう。意味はよく

五章古典 3 和歌の鑑賞 基本問題①

確認 ★ 句切れと調べ 四句

表現技法 (1) 香具山 体言止め

(2) 倒置法

(3) 枕詞

P.118 (1) 二句

(2) 梅

(3) ぞ

(4) 柳かげ 係り結び

(5) 三句切れ 七五 体言止め

P.119 1

2

3

(1) 而

(2) 学びて思はざれば則ち罔し。

(3) 思 而 不 学

(4) 子曰はく、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」

五章古典 4 漢文の読み方 基本問題①

確認 ★ 大器 晚成

(1) 待た

(2) 富士山 登る

(3) 曰 己

(4) 欲 所

(5) 施

(6) 而

(7) 而

P.120 1

P.121 2 3

- (2) また楽しからずや。
 (3) 不亦君子乎。

五章古典

5 漢詩を読む

基本問題①

P.122

1 確認

★ 漢詩の形式 四 五言絶句

1

七言絶句

- (2) 孟浩然

【解説】 黄鶴楼を去っていく孟浩然を、李白が見送っていることをおさえよう。

- (3) 表現技法…ア

誰…李白

2

- (1) イ

- (2) ① 城 ② イ

- (3) 別れを恨んで鳥にも心を驚かす

【解説】 3行目と対句になっていて、組み立てが同じであることに気づけば、書き下しも容易である。

- (4) 国家書 白頭

五章古典

たしかめよう

完成問題①

P.124

1

- (1) a まず b すぐって

- (2) イ ② 兼房

- (3) ① イ

【解説】 語注にある「義臣」の名前を會良の句の中から探

す。

- (4) さても義臣

【解説】 「夏草や…」の俳句は、「夏草が生いしげっている。ここは昔、藤原三代が栄華を極め義経らが戦った所だが、その栄華も今は夢のようである。」という意味である。この情景を具体的に表した文を探そう。

- (2) イ

- (3) 三

- (1) 幸くあれ

- (5) ① A ② F ③ E

- (4) F

【解説】 「かげもなし」でいったん意味が切れる。

- (5) ① A ② F ③ E

- (4) F

【解説】 ①の「月」を歌っているのはAのみ。②は「馬に乗った」「雪」から、Fとわかる。③の「陽気」は「ひかりのどけき春の日」のことである。選択肢の言葉にあてはまる表現を歌の中に見つけることが、歌の説明や、鑑賞文を選ぶコツである。

- (3) 霜 如雪

- (2) エ

- (4) われはたきぎをひろはん

【解説】 全体が四行なので絶句で、一行が七字である。

五章古典

たしかめよう

完成問題②

P.126

1

- (1) イ

【解説】 全体が四行なので絶句で、一行が七字である。

- (2) エ

- (3) 霜 如雪

- (4) われはたきぎをひろはん

(5) ウ

解説

一・二行目で、同じような友達がいると言っていることに注目しよう。

《現代語訳》

言うのはやめなさい、他郷で（学ぶの）は苦しく辛いことが多いと。／ここには、互いの着物を貸し合う友がいて、仲良くなるのだから。／明け方に粗末な扉から出れば、霜が雪のように（真っ白に）降りている。／君は水を汲んできなさい、私は薪を拾ってこよう。

(1) ウ

(2) 梅 あるじ

(3) エ

解説

「是なんあるじ」と言った人物が問われている。作者が訪ねた人物が外出中だったので、留守を守る男に「主人の代わりに梅の花がわたしを迎えてくれる」と作者が言ったのである。

(4) うしないて

(5) 草の戸

(6) イ

書いてみよう

例

わたしはバラ、特に真紅のバラが好き。なぜなら、色がきれいで、香りがいいし、気品があると思うからだ。

(四十九字)